

じゃあすき あけぼの



福山市立曙小学校 校長だより 2026年(令和8年)6月12日

「好きな本ってありますか？」に答えます。

「その時 何思う」のだろう。

竜馬は江戸へ向かって、寝待ちの藤兵衛と旅をする。そして、生まれてはじめて富士山を見た。

「藤兵衛、この景色を見ろ」

「へい」

藤兵衛はつまらなそうにまわりをみた。

「気のない顔だなあ。藤兵衛、一向に驚かぬな」

「見なれておりますんで」

「若いころ、はじめてみたときはおどろいたろう。それともあまり驚かなんだか」

「へい」

藤兵衛は、にが笑いしている。

「だからお前は盗賊になったんだ。血の気の熱いころにこの風景をみて感じぬ人間は、どれほど才があっても、ろくなやつにはなるまい。そこが真人間と泥棒の違いだなあ」

「おっしゃいますねえ。それなら旦那は、この眺望をみて、なにをお思いになりました」

「日本一の男になりたいと思った」

『竜馬がゆく』 [立志編] 司馬遼太郎 より 引用



司馬遼太郎さんの作品は、これまでたくさん読んできました。

好きな作品は、『最後の将軍』『人斬り以蔵』…など。

中でも、一番最初に手にして読んだのが、この『竜馬がゆく』でした。

この作品に出会い、坂本龍馬という人物への興味・関心を強くして、多くの本を読んだり、高知や京都、山口など所縁のある場所を訪ねたりしました。

これは、『竜馬がゆく』の中にある、富士山を目前にした竜馬と藤兵衛の会話です。

わたしは、この場面を読んでから、「自分が富士山を初めて見たとき、何を思うだろう」と考え続けることとなりました。

テレビの映像などで富士山を見ることはありましたが、「目前に」という状況はなかなかありませんでした。

目前にしたとき…、何かドラマチックで、格好いいことが思いつけば…と都合のよいことを考えることもありました。

その時は、突然来ました。目的地は、東京。新幹線の車窓からでした。

「富士山に行く(見る)」ことが目的でなかったものの、「あれが…」と気付きました。

本当に美しいと思いました。

何を思ったかは秘めておきますが、幸せを感じました。

それから、幾度か目前にしましたが、初めての「思い」を懐かしく思い出します。

『竜馬がゆく』、今でも読み返しています。



曙 ～ 朝日が早く昇る場所 ～ — A place where the sun rises early —